

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第107号

令和2年3月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

楠正行の軍団は、南（和泉）軍と北（河内）軍で構成

総大将は、大塚惟正と橋本正茂

＝ 残っていない正時や賢秀らの軍忠の記録 ＝

2月例会は、「楠正行の軍団」について学びました。正行の軍団と言えば、太平記にも登場する従兄弟の和田賢秀が有名ですが、他の武将についてはほとんど知られていません。正平3年1月5日の四條畷の戦いで討ち死にし、四條畷神社に祀られる正行以下25柱の武将名も、同子息や同人舎弟、誉田某などと確かな氏名の分からない者も含まれています。

残された軍忠状等から正行に従ったと思われる武将について、下記のとおりまとめました。

南軍（和泉軍）の総大将は、大塚惟正で、軍忠状にも数多く出てきますし、四條畷の合戦で亡くなっています。しかし、惟正は正行とともに討ち死にせず、別の場所で正行の死を知り、果敢に戦い命を落としていますので、四條畷神社に合祀されていません。

北軍（河内軍）の総大将は、橋本正茂ですが、正茂は城代家老の様な存在で、主に城詰を担っています。北軍の實質の中心武将は高木遠盛で、その軍忠は抜きこんでいます。

従兄弟の和田賢秀や、常陸國瓜連で佐竹勢と1年にわたって交戦した楠正家などの軍忠・行動はほとんど明らかになっていません。

また、友軍として、紀伊の安間親子や、大和の三輪親子が知られています。

■資料／楠正行の軍団

●印：四條畷神社に合祀されている武将
数字：四條畷合戦当時の推定年齢

南軍（和泉軍）

●和田新兵衛高家／23／・河内国石川郡（河内長野市）・正季の子、行忠とも。正行の従兄弟・和泉代官 岸和田城築城・岸の和田と呼ばれるようになり、当地を岸和田と呼ぶようになった（伝承・岸和田市史）

□守護代大塚掃部助惟正／36／和泉守護代／・河内国石川郡（河南町）・正行側近中の側近で、南軍（和泉軍）総大将。・四條畷の合戦で討ち死・延元元年11月18日、和田氏に吉

野総門大番役の勤司を命令。・延元2年1月1日、平石、八木らを伴い和泉に出陣、足利と攻防始まる。・延元2年3月2日、治氏と古市に城を築く。・延元2年3月10日、治氏、平石、八木や細川顯氏と古市合戦。

□八木弥太郎入道法達／和泉目代／・和泉国南郡八木郷（岸和田市）を本領とする国御家人・和泉の管領大塔宮、近臣四条隆貞の家人と思われる

□神宮寺新判官正房／・河内国石川郡（千早赤阪村）・河内国高安郡神宮寺（八尾市）が本貫とも。・太平記では、神宮寺の太郎兵衛正師の名で登場。・楠氏八臣にも数えられる。

□土生彦次郎義綱

□上郷左衛門太郎俊顯／うえのごう

□上郷俊康

□岸和田弥五郎治氏／和泉国人／・岸の和田から岸和田になったとの説も。治氏、快智、定智は親子か、兄弟か不明・大塚正連に近侍・延元元年6月19日、京都攻防戦に参戦。・延元元年8月1日、大塔宮を奉じ八幡に参戦。・快智、定智と横山に赴き敵の館を焼く。

□岸和田侍従房快智／和泉国人／・治氏の一族・延元2年5月14日、定智、治氏と武家軍を天王寺に攻める。

□岸和田大輔房定智／和泉国人／・治氏の一族・延元2年6月、快智、治氏と宮里城を波状攻撃。

□上神六郎兵衛尉範秀／・にわのりひで 和田庄の北に隣接する上郷郷の国御家人・延元2年9月、惟正、定智、治氏、上郷と宮里城を攻める。

□大塚新左衛門尉正連／・大塚惟正の子・延元2年10月13日、定智、治氏を指揮して槇尾寺を出て幕府軍を撃退。

●大塚惟久／大塚惟正の弟

□実弁／金剛寺衆徒

□弁房／槇尾寺衆徒

□須屋武親／・河内国石川郡（河南町）・錦部郡（現在の河内長野市、富田林市）を代表する楠一族とも。

□甲斐庄氏／・河内国錦部郡（河内長野市）を代表する楠

